



江尾のまちから大山を望む

江府町 江尾のまち

Map B



JR伯備線江尾駅に降り立ちふもと見上げると、高い山の上に江美城模倣天守が…。江尾の町は文明年間(15世紀後半)に、尼子氏の家臣蜂塚安房守がその立地の良さから築城したのがその歴史の始まりです。静かな佇まいの町並みを歩き、江美城跡に立つて町を見下ろすとどこかほっとするのは、伝統のまつり「江尾十七夜」に込められてきた町の人々の深い心情を感じるかといふところでしょうか。

一度として途切れることなく、
五百年の歴史を今に伝える

「江尾十七夜」



毎年8月17日に開催

この祭は約五百年前、江美城主の蜂塚氏が盆明けの十七日に城内を開放して民衆を招き、先祖の供養と豊年を祈って、朝まで無礼講で踊りと相撲に興じたのが始まり。祭のメインとなる「こだいぢ踊り」は、その後毛利の攻勢により落城し、打ち果てた亡き城主を偲び、人々が念仏の心を抱いて踊り伝えてきたもので、揃いの浴衣に編み笠姿の踊り手たちがゆっくりとした所作で進む情景には心癒されるものがあります。踊り会場となる上の段広場の坂道を下った町並みには、所狭しと屋台が軒を連ね、昔懐かしい賑やかな情景は、どこか夢に舞い込んだかのような様子。祭も佳境となる頃、対岸の山に「十七夜」の火文字が浮かび上がり、フィナーレを華やかな花火が彩ります。山里に夏の終わりを告げる、郷愁に満ちあふれたこの伝統の祭は、きっと夏の素晴らしい思い出となるはず。なお、こだいぢ踊りは鳥取県の無形文化財となっています。



せせらぎ公園

湧水のみで出来た水たまりを元としたビオトープは、自然のままに変わっていく生態系の様子を観察できる最高の環境学習の場となっています。また咲き誇るあやめの花や、乱舞する堂を見ることもできます。



江美城跡

現在、一帯はほとんどが農地ですが、わずかに土塁、石塁の跡を残しています。平成9年の発掘調査では、天守閣への階段や金箔装飾のある鯀瓦が発見され、これらから、安土桃山時代後期の江美城の勇壮な姿を思い浮かべることができます。また江美城本丸東側には、蜂塚氏を滅ぼした毛利により深さ10mの空堀が施された痕跡が残っています。



江美神社・ふる里の鐘

街の中央には江美神社の豊かな鎮守の森。いつも優しい木陰をもたらしてくれます。その下には上之段広場。そこに建つ「ふる里の鐘」の鐘の音が町中に時刻を告げます。

奥大山周辺ガイド

～東方～蒜山高原へ

江尾からは国道482号で、鏡ヶ成からは蒜山大山スカイラインを経由し、蒜山インターへとアクセスできます。スカイライン途中の鬼女台からは一方に大山南壁を、もう一方に蒜山高原の広大な風景を望むことができ、新緑～紅葉まで長期間すがすがしいドライブが楽しめます。また、鏡ヶ成から御机を経由して鍵掛峠、榎水高原までの道路は西日本最大級のブナの原生林を抜け、さながら紅葉のトンネルを抜けるかのような爽快感が味わえます。

～西方～とっとり花回廊へ



日野川を米子方面に進むこと約15分、伯耆町鬼守橋を渡ると国内最大級の花のテーマパーク「とっとり花回廊」につきます。一年を通して色とりどりの花を見ることができ、季節毎のイベントも盛りだくさんです。



さらに国道181号を南に約5分のところには、縁起の良い名前でも知られる金持(かもち)神社があります。売店(午前10時～午後4時)では、地元手作りのここにしかない縁起物グッズも販売され、開運招福を願う人たちが賑わっています。

～南方～奥日野へ

日野川に沿って車で約10分。明治時代まで「たたら製鉄」で盛えた出雲街道の宿場町「根野」はオシドリ(オシドリ)の飛来地としても知られ、日野川岸の観察小屋では、数羽の可憐な姿を間近に見ることができます(11月～3月)。

